市民ひろば

発行人　市民ひろば編集委員会
〒411-0858
三島市中央町3-32 小出ビル1F
代表　小野 啓一
電話：055-955-5095
http://4hiroba.web.fc2.com/
smn_hiroba@yahoo.co.jp
郵貯 12340-51078941

ひろば新聞定期購読者募集
申し込みは上記連絡先へ
毎月3000部発行
年額1000円

書き留めて㊻　あさの　かずこ

マスク捨て胸いっぱいの想い吐き
アジールさがす彼岸中日
―コロナも同調圧力も怖い―

ねむのきに抱かれて眠るように逝く
吉行さんの待つところへと
―ねむの木学園のまりこさんに―

世界はコロナ禍の恐怖に怯える

苦境を切り抜ける光は見えるのか

世界の新型コロナウイルス感染者は4月2日に100万人だったものが、15日には200万人を超えた。8割は欧米に集中し、死者は14日には12万人を突破した。感染拡大は衰える気配はない。国内では15日段階で感染者8683人、死者178人（クルーズ船除く）。4月10日には5246人であった感染者が急増している。しかも、潜在感染者数はこの10倍近いとみられている。

三島は首都圏への新幹線通勤乗降客が多い。いつ感染者が出てもおかしくない。現在感染者ゼロだが、それが本当かどうか検査が少な過ぎ不明だ。

コロナのPCR検査は、コロナの疑いが有るからといってすぐに検査してもらえる訳ではない。保健所の指示で「帰国者・接触者外来」を受診し、医師が必要と認めた場合に限られる。県下でも検査希望者の95％以上は拒否されている。家族の感染が判明しても受けられない場合がある。

全て検査すれば医療現場が混乱するとか、PCR検査の判定率は7割程度で、検査を拡大すると偽陰性や偽陽性者が多発するとか、厚労省は色々理由を述べている。しかし、韓国や中国、ドイツ等は徹底した検査体制を敷き、状況は好転しつつある。

もし、PCR検査で陽性となれば、感染症指定の病院に入院となるが、県下では感染症病棟があるのは10病院だけ。ベット数は全部で43床、県東部では熱海病院4床、裾野日赤病院6床、富士市立中央病院6床の計16床だけだ。感染者が溢れれば、軽症者や無症状者は自宅療養となり、重症者は設備の整った一般病院で受入れるしかない。これらの采配は県の指示で決まる。

4月7日「緊急事態宣言」が出されて以降、首都圏を中心に飲食店、接客・宿泊業、観光、イベント業等で一段と大きな経済的打撃に見舞われ、中小業者や個人業、派遣労働者、パート・アルバイト労働者は死活問題に追い詰められている。

4/15付朝日新聞Web版によると、政府による突然の全国一斉の休校措置で、低学年児童を抱える世田谷区のひとり親女性は、それまで学校給食に頼っていた子供の昼食が突然途絶えた。仕事も無く、NPOの支援で、やっと口にしたおにぎりの

子供の書いたNPOへのお礼状

おいしさに子供ら等がお礼状を出したという話が紹介されていた。

三島市に「コロナ禍により苦境に陥った事業者に対し市独自の救済処置は何か?」と聞いたところ、国による「新型コロナ感染症特別貸付」と「特別利子補給制度」を併用した、無利子、無担保融資の活用を促すことや、日本政策金融公庫による「小規模事業者経営改善資金」を活用した小規模事業者に対して、三島市が独自に利子補給を行い、当初の3年間には実質無利息で融資を受けることが可能となる対応をしている。更に、県が行う「経済変動対策貸付（コロナ感染症対応枠）」に対しても、県の利子補給0・67％に、市に0・8％の利子補給を上乗せし、中小企業の負担軽減を図っているとのこと。

また、労働者の雇用維持を図る中小企業に対しては、休業手当や賃金等を助成する国の「雇用調整助成金」の活用を促す社会保険労務士等専門家を派遣し、支援をおこなうことだった。

今回のコロナ禍による打撃はリーマンショックをはるかに上回り、1930年代の世界大恐慌に匹敵すると言われている。

多くの国民がこの窮状に身構えた。先の不安に怯える中、安倍政権は国民一世帯当たりマスク2枚の配布を決定。その経費に466億円を支出する

スペインはベーシックインカムで給付の道を
イタリアは経済活動を見切り発射で再開
日本はどうなる?

三島市では感染者が出てません。市からのメッセージではそうあります。しかし同エリアと言える長泉町、清水町で感染者が出ました。

一番の繁華街、広小路でも人影が消え、営業自粛の店舗が目立ちはじめました。

経済活動を回すことで成り立ってきた資本主義社会が成り立たない時代がやって来ました。

【アメリカ】

資本主義社会を先導、支配する国アメリカ。

コロナ蔓延で感染の歯止めが効かず広大なアメリカ全土で都市封鎖。経済活動は微弱でほぼ止まっています。それなのに一時暴落した株価が再び暴騰してます。これはトランプ大統領による「無制限の政府による介入」宣言のよるところが大きいです。当然実際はモノが売れない状態ですから経済実態の乖離は甚だしく砂上の楼閣と言わざるを得ません。

【スペイン】

欧州に目を向けるとスペインではベーシックインカムを導入。ベーシックインカムとは人々の暮らしを維持するだけの金銭は政府から給付されます。少し贅沢をしたい分だけ稼ぐといった制度です。営業自粛、仕事に行けない状態ではベストな選択でしょう。自粛しても大きくは問題ないのでみんな家で休みます。因みにスペインの国家は元々火の車です。それでもベーシックインカムが選択できるということが重要です。

【イタリア】

そのお隣りイタリアでは経済界の圧力でコロナ蔓延の最中経済活動を再開の道を選択。「このままでは経済が持たない」コロナウィルスが経済活動を考慮してくれるワケはないので感染が広がりより経済がダメージを受けます。医療も崩壊しどうしようもないことから共存と言う名の「見ざる言わざる聞きざる」に陥ったのでしょう。こうなると国家は崩壊することは歴史が証明してます。

日本では安倍晋三のお友達企業である富士フィルム開発のアビガンが有効という何の根拠もない話を大きく宣伝。それによって株価を引き上げご満悦。給付金も未だ決まらず出し渋ってます。

「これで耐えられない企業は潰す」と自民党内の閣僚議員が言ったとか。

この国の未来があるかはわかりません。

もしあれば選挙に真剣に向き合おうね。考えない方は全国民を不幸にすることをお忘れなく。

〈近藤〉

という呆れた政策が不評を買っている。

今こそ国民に現金を速やかに配るべきだ。財源は大企業の内部留保が500兆円近く有りその拠出を促し、また特別会計の余剰金200兆円相当が隠されているといわれ、その資金の活用もある。自分ファーストが大手を振っていた今までの新自由主義的考え方ではこの難局は乗り切れない。

〈考〉

百千鳥

▼今から百年ほど前、スペイン風邪と言われるパンデミックがあった。世界的大流行で、いたる所に罹患者がでた。それは1918年から20年迄の3年間、3度にわたった流行だった。時は第一次世界大戦。1918年アメリカ合衆国がヨーロッパ戦線に参戦し、日本は日英同盟のよしみでドイツ領であった南洋諸島と租借地の青島を攻撃し占領。欧州の荒廃で工業製品や食料品の輸出拡大、好景気の真っ最中であった。▼アメリカで4月に最初の患者が見つかり、軍隊であっという間に感染が拡大。戦場では敵味方の区別なく流行したが、士気を下げないため報道管制された。中立国であったスペインでは流行の詳細が報道され続け、そのためスペイン風邪と呼ばれることになった。▼当時の世界人口の4分の1の5億人が罹患し、死者は5千万人。日本では総人口の5％にあたる250万人が罹患、死者は40万人にのぼった。この時は、乳幼児と若者の死亡率が高く、国によっては戦死者の2倍にもなった。これが10年後の大恐慌に繋がったとも言われている。▼原因がウィルスであることがわかったのは半世紀以上たった後である。しかし当時の記録には「流行を抑えるには密集を避け手洗いを励行、マスクの着用等を国民に知らせることが大切である」と書かれていて、今と同じだという事に驚く。▼スペイン風邪は三島ではどうだったか?鉄道が敷かれたことにより宿場町の面影だけが残るさびしい街だったのか、探してもスペイン風邪の記録は見つからなかった。三島にとっては今回が初めてのパンデミック体験となる。今の時点ではまだ罹患者が出てないが、のほほんとしている場合ではない。三島は新幹線通勤者が多く無症状感染者がいる可能性もある。それを前提に早急に対策を考えて欲しい。▼筆者は地震の度に、大正一桁生まれの父母から関東大震災（1923年）の時、一晩中竹藪の中で恐怖に震えていた話を聞かされたものだ。なのに生まれてこの方何回も風邪で高熱を出していたのに、スペイン風邪の話は不思議と聞いていない。体験の記憶は繋がってはいかないことを実感した。

〈啓〉

裸の王様

「居場所」

今どきお盆、正月映画の定番もないが、かっては山田洋次・渥美清コンビの「男はつらいよ」寅さんシリーズがあった。ワンパターン・マンネリのシリーズであったが、人気の源泉は寅さんが既に失われつつあった共同体の「ノスタルジー」を感じさせるところにあったのではないか。

60年代初頭には存在していたかもしれない居候とその居場所が映画の背景にあった。私の子どもの頃は、親戚に居候がいて、確たる生業もなく、「三杯目にはそっと出し」と家から疎んぜられながらも隅っこで食にありつき生きていた。西南戦争の頃生まれたバアさん（祖母）ちゃんが、よく「天保銭」と言っていた。当時はわからなかったが、百文の価値があったはずが80文にしか通用しなかったとの例えであった。よく「お前も天保銭じゃ!」と言われた（笑）。

でも、この居候が田舎の物知り、耳学問で読み・書き・ソロバン、俳句や絵まで描いた。わしらガキ共を集めて講釈したものだ。江戸期の庶民文化の一端を支えたのは居候文化だったという人がいる。資本主義未分化の地方共同体には居候ぐらい抱える余裕があり、受け入れる寛容さがあったということか。

寅さんが居候で帰ってくるその過渡期に勤務していた。勤労学生の場であった定時制が、家庭崩壊・不登校など複雑に絡んだ若者たちの場になっていった。

適応障害なのか発達障害なのか、同時進行ではないが例えば、10分以上椅子に座っていられない子、会話は不自由ないのに漢字が読めない・書けない子（安倍だってフリガナ付けなくては読めない・笑）、リストカット癖のある子など。

ところが、捨てる神あれば拾う神あり、教員お手上げの難しい子らのクラスを準看護婦生徒のSさんがうまくフォローしていた。授業中、突然奇声を発する子に「○ちゃん!後15分だからね」と落ち着かせた。こんなこと昼間の優等生にできるか!

リ付

高校教員の渡り鳥であった私の半分近くは夜間定時制勤務であった。働きながら学ぶ場であった定時制が高度成長と偏差値至上主義のなか、中学ではじかれ、昼間の高校では落ちこぼれた若者の「受け皿」となっていった、いわば生

息苦しくなり居場所を失い脱落する子どもが増えても不思議ではない。

労働現場でも居場所を失った非正規がどんどん拡がっている。コロナ禍では居場所どころか生存が脅かされるかも。選挙棄権層が50％に達する問題に「居場所」を失った若者の問題が内在しているのではないか。野党共闘が投票先の選択肢を示しても、それ以前の問題がそこにあるのではないか。彼、彼女らは居場所を求めるために投票に行くかどうか。れいわ新選組あたりがその声に応えられるのか。

〈金原〉